

## 不空罽索観音菩薩像

絹本着色  
縦87.7cm 横43.2cm  
鎌倉時代(13世紀)  
個人蔵

不空罽索観音は、鹿皮を身にまとい、罽索すなわち鳥獣魚をとらえる縄をもってあらゆる衆生をもれなく救済するほとけとされる。わが国では東大寺法華堂本尊像や興福寺南円堂本尊像に代表されるように、三目八臂の立像あるいは坐像のかたちで造像されることが多い。

ここに紹介するのは、二目八臂で錫杖・蓮華・弘子・罽索を持物とし、方形の須弥座上の蓮台に両脚を垂下して坐するという、大変珍しい姿の不空罽索観音菩薩像である。両目がうねるようにつり上がり、両肩にまとう鹿皮は獣頭・獣足をグロテスクなまでに詳細に描き出し、朱色の隈取を施したなまめかしい肌の質感など、他に例を見ない異色の表現がひととき目を引く。実は本品と細部まで像容が一致する不空罽索観音の白描図像が、平安時代後期に成立した図像集である『別尊雑記』に「唐本像」として掲載されており、その着衣や光背・台座に至るまで彩色の註記があることから、中国・宋からもたらされた彩色本をもとに写されたものと考えられる。本品に施される彩色は、この「唐本像」に記される色註とほぼ一致しており、中国からわが国にもたらされた画像の転写に際しては、こうした白描図像が介在していたことがうかがわれる。鎌倉時代における仏画制作の実態を示す希有な優品として注目されよう。

谷口 耕生(当館学芸部保存修理指導室長)

◆特別展「みほとけのかたち-仏像に会う-」にて展示(8/20~9/16)

## 展示品の みどころ

## 弥勒如来坐像

重要文化財  
長崎県壱岐市鉢形嶺経塚出土  
滑石製 像高54.3cm 台座径40.4cm  
平安時代(延久3年/1071年)  
当館蔵

玄界灘に浮ぶ壱岐島から出土した滑石製の如来像。一つの石塊から削り出した丸彫り像で、衣を通肩にまとい、手は腹の前で法界定印を結び、右足を上にして結跏趺坐する姿をあらわす。石材の制約から膝の横張りがなく、デフォルメされた体軀となつてはいるが、顔や肩の肉付は豊かで堂々としている。螺髪を一つ一つ削り出しているのも手が込んでいる。わが国

の石仏で平安時代にまで遡るものは非常に少ない。そんな中で本品は延久3年(1071)の刻銘をもち、完全な姿を残す丸彫り像として、石仏史上最も重要な作品の一つである。

定印を結んでいるので大日如来か釈迦如来、あるいは阿彌陀如来でも・・・と思いきや、背中には「弥勒如来」と刻まれている。半跏思惟でおなじみの弥勒菩薩ではなく、その未来の姿、釈迦の入滅から56億7千万年の後にこの世に現れる弥勒如来の姿である。弥勒出世の時に備えて、法華経を像内に奉納したとも刻まれており、像底には確かに大きな内剝が施されている。石仏でありながら、経巻を納めて地中に埋蔵する「経筒」でもあった。末法思想を考える上で、これほどの珍品、いや重要作品はなかなかお目にかかれないであろう。

吉澤 悟(当館学芸部情報サービス室長)

◆特別展「みほとけのかたち-仏像に会う-」にて展示



### 開館日時(7月~9月)

#### ■開館時間

- 7月1日~19日、9月18日~30日は、午前9時30分~午後5時
- 7月20日~9月16日は、午前9時30分~午後6時まで
- 8月6日~14日(なら燈花会期間中)及び毎週金曜日は午後7時まで
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

#### ■休館日

- 毎週月曜日(7月15日、8月12日、9月16日、9月23日は開館)
- 7月8日~10日、7月16日、9月17日~19日、9月24日は休館

#### ■無料観覧日(名品展のみ)

- 9月16日(敬老の日)は、名品展が無料となります。

### 観覧料金

#### 特別展「みほとけのかたち-仏像に会う-」

	一般	高校・大学生	中学生以下
個人(当日)	1,000円	700円	無 料
団体・前売	900円	600円	

※団体は20名以上です。※前売券の販売は7月19日(金)まで  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

#### 名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無 料
団体	400円	200円	

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、  
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございません。

